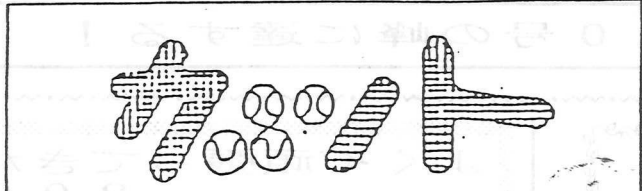


Since, 5.1972



東村山市民テニスクラブ協議会・機関紙

コート取り当番クラブ

10月	11月分のコート	美住B
11月	12月分のコート	美住C
12月	1月分のコート	恩多A

発行責任者・柳 利夫

住所・東村山市萩山町 5-6-26, 301号

編集責任者・黒岩俊雄

☎ 0423-(95)4336

### 第7回運営委員会報告

9月5日 スポーツセンター2F クラブ室 PM 1:00~3:00

#### 連絡事項

**技術部報告** ☆9月11日~12日にかけて、技術部合宿を開催致しました。

現在行われている秋の大会後のスクールにおいて、その効果の程を御披露致します。

★10月11日(休)には、森川氏による技術部レッスン(ボール出しのテクニックなど)を行い、技術陣のレベルアップに努めます。

☆ **代替コート** の確保 — 10月3日(日) —

**場所** : JSSテニスクラブ  
**時間** : 午後3時~5時、2面確保しました。  
全面、スクール練習(初心・初級)を行いますので生徒さんは是非共参加されたし。勿論・聴講生歓迎致します。

**広報部報告** ☆ <第2回広報部会を開催した。>

市民テの機関紙『ガット』の編集について前半の部の反省会と後半に向けての編集要領等について打合せを行いました。〔場所・朝日屋11:30~12:30間〕  
☆久米川コート混雑時のノード方式について(訂正)  
『1セット6ゲーム先取の試合で、試合の順番を待つ人の数が試合コート利用人数の2倍(コート面数×8人)となった場合、その時以降に始める試合をノード方式とすることが出来る。』  
例・「コート3面を使用して(12人)ダブルス3試合をしており、且つ、試合待ちが24人(2倍)となった場合、4試合目からノード方式とすることが出来る。」

**財政部報告** ☆御存知の通り、今夏の雨量は記録的でありそのため久米川コートの利用日数が減り、コート代に余裕がでた。(代替コートもあまり確保出来なかった)

**事務局報告** ☆『早朝コートの確保』☆注意報  
10月2日(土)はDコートのみです。  
〔1面しか取れていません〕早朝愛好家の方々、ご注意を!  
★市民大会開会式への参加について会員の皆様のご協力ありがとうございました。〔約40名ほどの仲間の参加あり。〕

**東村山市民テニス連盟表彰** 第46回都民大会女子の部『団体戦』準優勝の東村山市民テニス連盟チームが上記の開会式で表彰されました。監督兼選手の・市民テ「武田さん」が、表彰状を受け取りました。『上記団体戦は平成5年5月30日に行われています。』

**各クラブ報告** ☆  
美住クラブ 夏合宿の報告(写真など別掲)なお、諏訪クラブよ  
諏訪クラブ り忘年会の日程を、12月4日(土)を予定したい  
恩多クラブ との提案あり。  
青葉クラブ  
萩山クラブ

#### 討議事項

**コートの有効利用法** 各クラブや会員の方々からお寄せいただいている左記の事については、数十項目に上る提案や改善策について、重複していると思われるものを除き、検討のうえ実施に移していくことで整理していく。

### 第30回市民体育大会(中間報告)

## 〔テニス大会〕

男子ダブルス(A)  
9月19日(日)

壮年男子ダブルス  
9月15日(祝)

**優勝** 福田・永倉

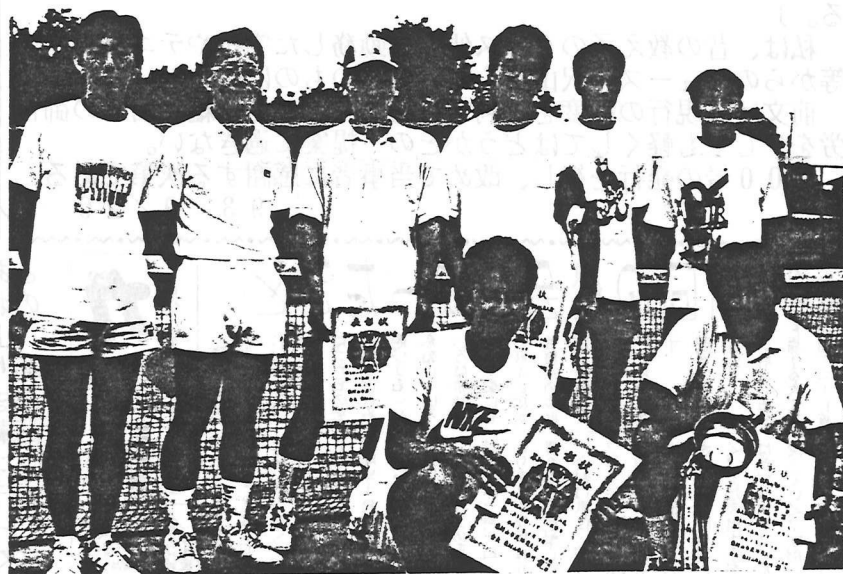
1 川島・田中  
8 6 永倉・福田(市民テ)  
3 4 阿部・渡辺  
6 高橋・木甲斐

共に市民テから優勝者をだした  
今秋は波にのって後半戦もガンバ

**優勝** 武谷・吉永

5 米澤・渡部  
8 7 武谷・吉永(市民テ)  
4 1 大川・江原(市民テ)  
6 松井・山本(市民テ)

◎見事に男子ダブルス(A)を制覇した福田・永倉ペアは、初の決勝進出で共に初優勝です。



女子ダブルス(A)  
9月15日(日)

女子ダブルス(B)  
9月15日(祝)

**優勝** 柳・深田

7 江原・増本(市民テ)  
5 6 内藤・川島  
8 6 柳・深田  
4 佐藤・新沼(市民テ)

ベスト8 松井・大木  
原田・酒井  
秦・森田  
江崎・関根

ベスト16 射場・森  
山本・遠藤  
小暮・宮坂  
佐藤・越坂部  
崎山・斉藤  
浜野・五十嵐  
荒木・荒川  
丸山・丸山

残り・女子ダブルスB  
10月24日  
雨天順延  
男子ダブルスB  
10月17日

今月のテニスショップ『フジ』による  
**用具指導日は、秋季大会のため中止致します。**(所沢店の方へお出掛けください)

『ガット』200号の峰に達する！

200号 御苦勞さん

名誉会長 太田義郎

毎月発行の『ガット』が200号になると聞き、驚いた。一体何年間になるのだろうか？ 今月号を発行すれば、すぐ次の1日が気になる仕事を、200号もよく続けて下さった黒岩編集長を始め、ボランティアの皆さんの根気に頭が下がる。

文章を書くと言うことは、電話をかけるのとは全く違ってむづかしいものである。

手紙は、相手が一人だし、日記は自分だけのものだから、割合に気楽であるが、不特定多数の人に読んで頂く公開文となるとそうはいかぬ。

殊に、このような文には、切の期日がある。中々集まらない原稿にやきもきするのは編集者である。

『ガット』の内容は、クラブ活動の予定・その結果の報告・その他の本部記事の他、各部の活動報告、会員個人のメッセージまで、種々雑多の記事があるが、これを1枚の紙面にレイアウトするのは容易なことではない。

それで『ガット』の発行日について提案がある。

〔毎月1回発行を2ヵ月に1回か3ヵ月に1回とし、その代わり紙面を2枚又は3枚と、取材の量によってふやす。例えば、新年の1月1日、桜咲く4月1日、暑さに向かう7月1日、冬に向かう10月1日とすれば期日に追われるあわただしさも少なく、材料をもっと集めるにも余裕が出来、発送の労、郵税も軽減される。〕

私は、昔の教え子のクラス便り、勤務した学校やテニスクラブ等からのニュースを沢山頂くが、毎月のものは殆どない。

前文は、現行の制度を批判するものではなく、編集当局の御苦勞を少しでも軽くしてはどうかとの一提案に過ぎない。

200号の発行を祝し、改めて当事者に感謝する次第である

93/9/20

よくぞ頑張ってきた200号を！

会長 柳利夫

本紙『ガット』の創刊号が発行されたのはクラブ創立後2年してからの1, 975年3月30日付けでした。

編集実務を通したこれまでの足跡を大ざっぱに振り返ってみます。

当初の1年余は季刊的(年4回)発行で、現副会長の武谷直也さんが担当されての基礎作りでした。

次いで15年前に転居・退部された国川哲男さんが1年3ヵ月に亘り、隔月刊で編集されました。

引き続き3番手として担当して下さいました方は、6年前に入間市へ転居された、お馴染みの川村英明さんで、7年間に亘り『日刊紙化を確実に定着』させて下さいました。

以来、佐藤多喜男さんが約2年間頑張ってお下さり現在の編集長である黒岩俊雄さんにバトンタッチ。

黒岩俊雄さんは、6年半前から広報部長としての組織作りを通しての機関紙作りに力を尽くしていただき、ここに発刊200号を迎えることができました。

本当におめでとうございます。

これまで実務の責にあった各氏の労苦に重ねて感謝とお礼を申し上げます。

そして、職場に家庭にと大変多忙な最中、企画・取材・寄稿にご協力下さいました内外の多くの皆さん、また日頃何かと助言を下さいました会員の皆さんに改めてお礼申し上げます。

私たちの機関紙『ガット』が、文字通り会員の“絆”として、さらにこれからも充実出来ますよう衷心から祈念したいと思います。

93/9/20

左下をご覧下さい。

これが『ガット』の創刊号です。(昭和50年です。)

現在の会員の方々は、この頃はどんな事をしていましたか？

なんと、あの恩多クラブがこの年の1月1日付けて誕生したとあります。また、現在の市民テの会長の柳さん・副会長の武谷さんのお名前も載っています。

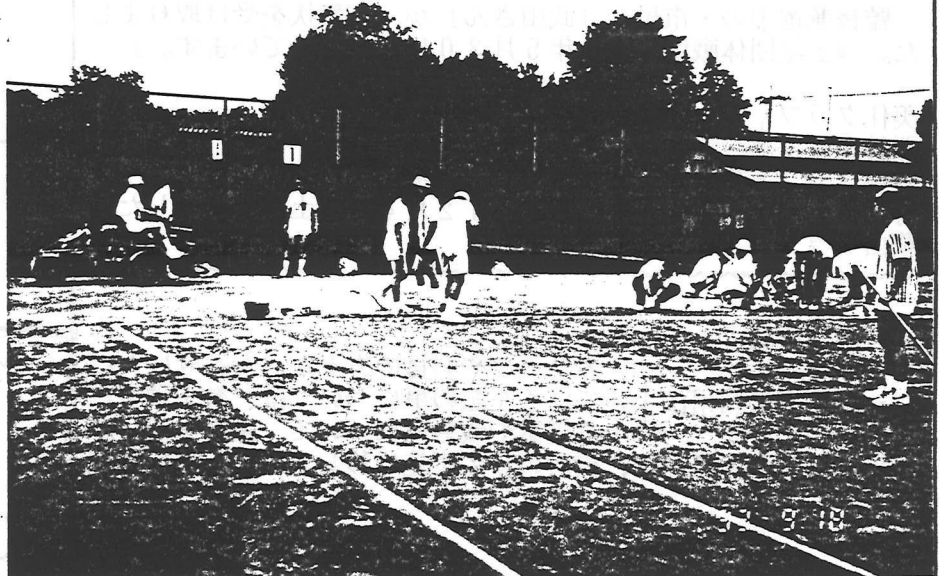
上記の会長の言葉の中に、この創刊号は『武谷』さん創造られたとあります。

また、スポーツ障害保険への加入や、新体連などに加盟するなどの記載があり、飛躍への熱意が伝わる。

コート確保などにも、現在の完成された姿を覗んでの相互協力と、ボランティア精神の発揮を促している。

久米川コートの整備 9月18日 PM1:00~2:30

ライターの張り替え・周囲のネットフェンスの修復や草取りで環境美化に取り組む市民テの面々。(写真その1)



ガット 創刊号 1975年3月30日発行 1975年3月30日発行 1975年3月30日発行... (A detailed table of contents for the magazine's history, listing issues and their contents.)

ガ ッ ト と 私 (名人柳さんのことなど)

萩山クラブ 佐藤多喜男

ガットは毎月すみからすみまで読んでいながら発行号数まではさすがに見ていなかった。黒岩広報部長に、200号記念に何か一言との原稿依頼を受けてはじめて今月が200号であることを知った思えば僕が広報部にいたころに100号の通過点(1985年6月)があったから、あれからもう10年近い歳月が経ったかと思うと感慨深いものがある。

僕が広報部に拉致されたのは、入会2年目のことだった。(以降7年間も軟禁されることになるのだが) そのころのガットは、毎月広報部長が東住の共同作業場に集まって輪転機を回して作っていた。原版はいつも部長の川村さん(今は退部されている)がどこかで書いて持ってきたが、時にはその日になって薄暗い作業場で、ロウ紙にボールペンで書いて原版を作ることから始めることもあった。ガリ版に輪転機、薄暗い部屋、印刷用のねっとりしたインクの匂い、そして髭面の柳さん。もしかして偽札作りの現場ってこんなじゃないかと思ったりしていたが、きれいな雰囲気ではなかった。そんな部屋で僕がいつもうっとりとして見とれているものがあつた。それは柳さんの名人芸とも言える、あざやかな紙さばきである。

まず紙の数をかぞえる芸。

50枚程の紙を山からスツと取って机の上でトンと端を揃えシュッと手のひらでずらすと紙は台形状になる。これを5枚ずつ親指でサッサッサツとかぞえてゆく。この一連の動作の早いこと、流れによどみがなかった。

次の芸は、輪転機にかける前の紙を、長手方向に、こんな風を持ってバサッバサッと波打たせて紙の間に空気を入れる。輪転機にかけたとき紙が重なって巻き込まれないようにするためだ。

200枚くらいの紙がまるで布の様にしなやかに波を打つ。それを始めての日に見せられた僕は、柳さんて一体何者なんだろうと、考え込んでしまった。きっと紙を扱う仕事をしている人に違いない。そうなるといういろいろあるが、あの芸は.....そうだ新聞配達のおじさんだ。

その日の印刷が終って立派なガット(37号1980年3月)ができあがった後、誘われて久米川の焼鳥屋に行った。窓越しに、一級河川空堀川のカンバンを見ながら二級酒を飲んだ。

そこで僕は聞いた。緊張していたため、やや柳さん、と出だしてもたついてしまった。ところが、柳さんも、ささ佐藤君、ともたついている。柳さんも相当緊張していたのだろうか。

お互い、もたもたしながらの会話だったが、新聞には関係ないが、紙に関係のある仕事をしている人だと言うことを知った。

二人とも、しこたま飲んで、すっかり酔ってしまった柳さんを担いで帰った日のことを、もうセピア色に変色してしまったあの古いガットを見る度に思い出す。それにしても、いまだに柳さんは僕と話すとき、ささ佐藤君と緊張しているのはどうしてだろう。ここまでがこの拙文の序文である。以下、本文。

広報部の仕事は大変な仕事である。

毎月一度も欠かさず200回も出し続けて来たと言う事だけでも並大抵の事ではない。また広報の仕事をやっていると、市民テが、いかに大勢の裏方さん達に支えられて成り立っているかがよくわかる。その意味では会員のみなさんに、ぜひ一度はやってもらいたい仕事であると思っている。裏方さんたちの苦勞を知ったら、とてもあんなわがまま言えなくなりますよあなた。本当に。

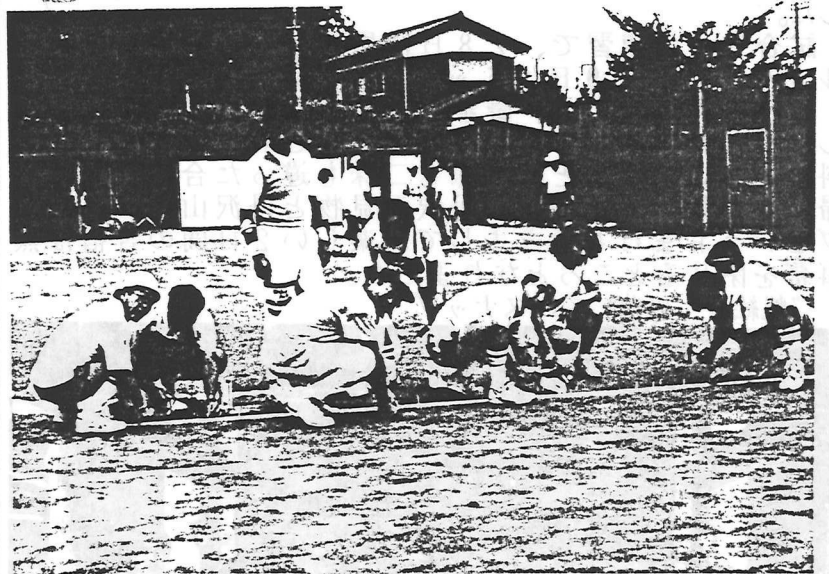
最後に、ひとつだけお願いがある。

それは、ガットの記事は、投稿者の名前も、記事に登場する人の名前もすべて実名にしてほしい、と言うことである。そうすれば、一段と親しみやすい機関紙になると思うのだが、どうだろう。

久米川コート<sup>○</sup>の<sup>○</sup>整<sup>○</sup>備<sup>○</sup> 9月18日 PM1:00~2:30

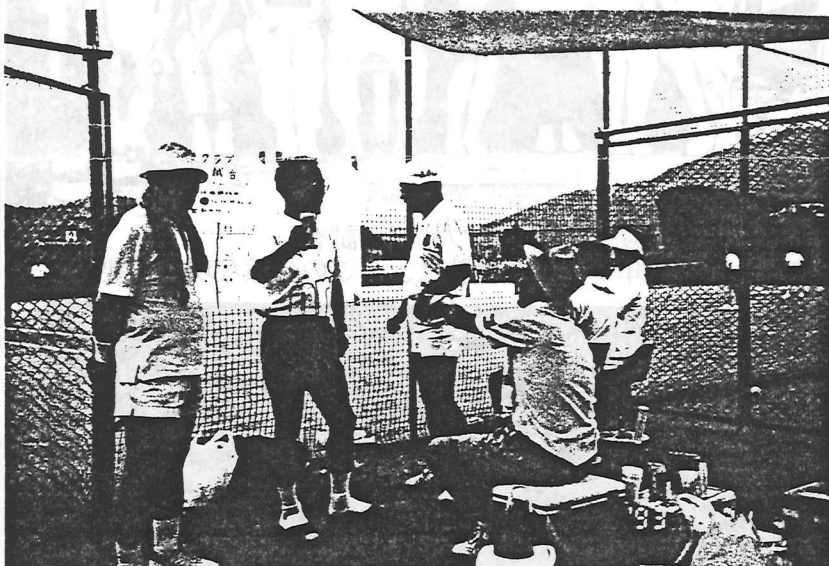
市民テでは毎年恒例となっている“ホームコート”の整備を全員に声を掛け、秋空の下で行いました。(40数名の参加)

市民テの創立以来、もはや伝統ともいえるこの“コート整備”は、貴重な晴れ間の時間にボランティア精神で取り組まれた。①周辺の草取り②外周ネットのほころび直し③痛んだテープ張替④側溝周辺の余分な土砂の排除⑤ローラーかけなど。(その2)

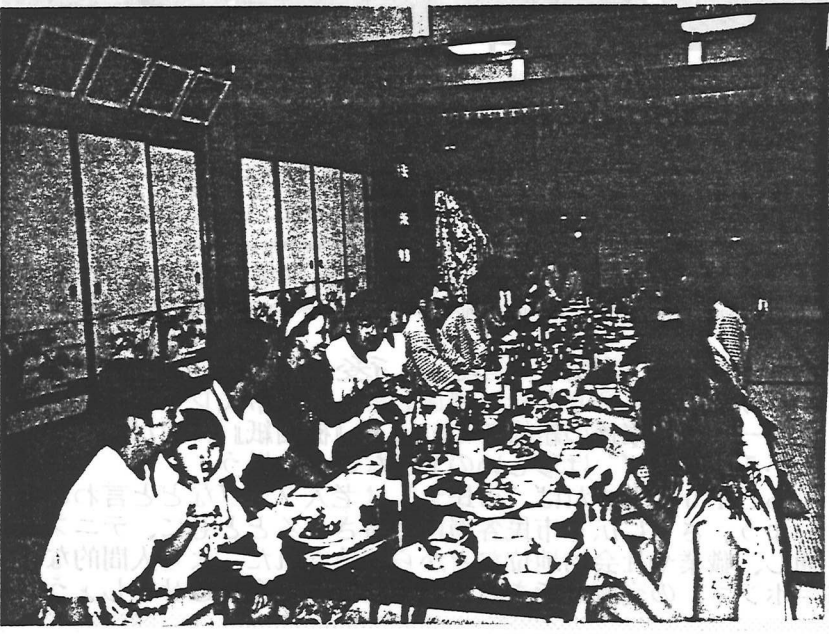


萩山クラブの合宿スナッフ

全員集合・ハイ、パチリ



富士の家での宴会が、今まさに始まろうとしています。<参加者のテニス以外の内面が、これからあばかれる。>



恩多クラブ・夏合宿報告  
恩多クラブ・川路夫妻

8月28日(土)、29日(日)の一泊2日で、ペンション“帆絵夢”におきまして、伝統ある恩多クラブの夏期合宿が行なわれました。

参加者の構成は、男性が10名、女性12名となりました。

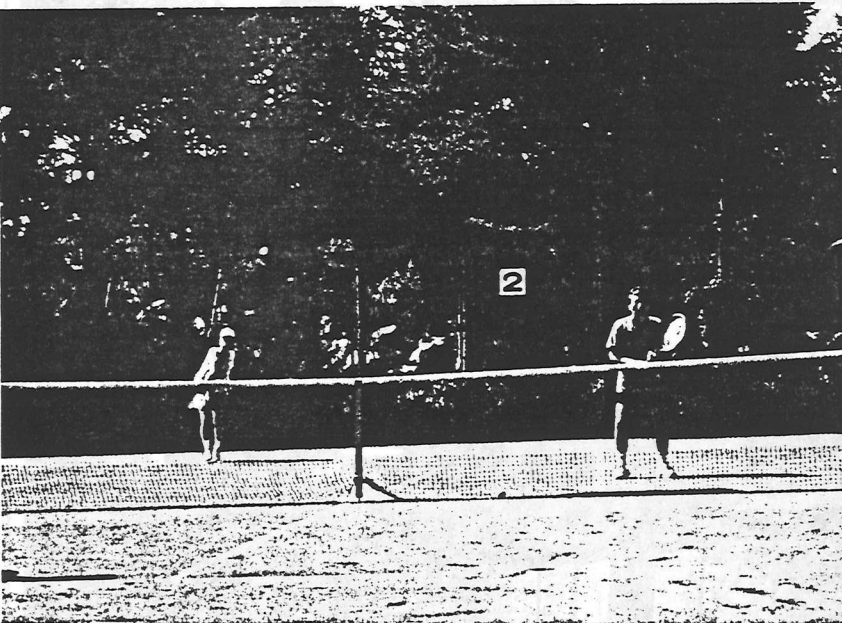
試合中心の練習で、28日は男子ダブルスと女子ダブルスを行い、29日はミックスダブルスを行った。

それぞれのペアが、豪華な賞品を目指して汗を流しました。“帆絵夢”の素敵なマスターと美味しいフランス料理で、これまでとは一味も二味も違った合宿となり、帰りには思いもかけず、丹沢湖見物と丹沢山中のドライブというおまけも付きまして、楽しい2日間の合宿は無事幕を閉じるころとなりました。

“帆絵夢”の前にてのスナップ



静かな森林をバックに男子ダブルスの試合、武谷さんの壮年ダブルス優勝は、ここの自然な環境も要因か



青葉クラブ+シンパ+その他=36名(男女合わせて) ⇒

編集後記

『ガット』も200号に到達しました。市民レベルによる、スポーツ愛好家達の組織でこれほど『機関紙』にこだわり続けている“クラブ”は珍しいのではないかと思います。

あと10年もすれば“市民テ”は老人クラブなどと言われないう、さらに広く市民各層に定着させるとともに、テニスを通し、職業や社会的地位などから開放された、より人間的な(=ホンネ)の交流ができる“倶楽部”へと発展させましょう。

私とテニス

萩山クラブ 大川 濃

Subタイトル・私とテニスコート=社交場(久米川コート)

最近の天気予報は、早く確実に変わったものだ。テニスに熱中しだした今、週末の天気が気になってならない。

土、日曜日はテニス漬けである。

若くない小生にとって、肉体の休まる暇が無くなったのである。しかし、ここ(久米川コート)は誰に気兼ねすること無しに、話をしたり聞いたり、自由な楽しい気分を味わえるのである。

長幼の序を逸さないかぎり興味が募るばかり、次々と貴重な体験談を聞き、得をした気分である。

ゴルフ、スキー、バーベキュー、キャンプそれぞれのセミプロが存在し、講釈の花が咲き乱れ、体の休まる暇がまた、無くなってしまうのである。

先日、新築祝いの席に招かれた。

たまたま、同級生であったため、昔の写真を持ち出してきた。特に女性は興味があったらしく、酒の肴になってしまった。

「昔と変わっている」とか、「白黒の写真か」とか、批評がおもしろいのである。自己中心に素直に感心したり、ヨイショしたり様々である。

メインの新築に関する話題は殆ど出なかった、寂しい限りである。色々な環境に育って、色々な考えを持ち、掛け値のない話のやりとりは実に参考になり、将来、自分の財産になること請け合いである。

テニスをすることは、天皇・皇后陛下の出会いから始まり、上手になればなるほど多くの出会いがあると考えられる。小生は、新しい出会いでスキル、アップに努力している。

何事も目標を持つと上達がはやい。敷かし、人生の半ばにさしかかる頃には、そればかりではなく、人格の向上、体力の鍛練、総てに対する「ゆとり」を養い、小さなことには腹を立てず、冷静にあとは子供の成長と、個性と、人格を尊重し、老後の楽しみ(心配ごとも含む)を味わいながら自分の趣味を謳歌すべきである。

いわゆる、人間の運命は決まっている。「太く、短く」であれば幸いである。

人は、何のために、誰のために働き、生き甲斐や喜びを如何に味わうのか。人生色々、多種多様な人種がウロウロしているところ、それが久米川コートである。

一生懸命努力する人、日焼けを気にして厚化粧する人、誰も見ていないのに自分を意識する人アフターテニスを企画する人、それぞれが、それぞれに満足し、納得している。

自身溢れる姿は、男女を問わず素晴らしい。明日また新しい出会いを求めて、コートへ足が出向くのである。

青葉クラブ・夏合宿

後ろには、塩原温泉峡から茶臼岳へと連なる山々、夜は温泉につかり・疲れを取り、優雅にコテージ

